



日本ワイドクロス株式会社

藤岡市



代表者：廣橋敏章
設立年月日：1973年8月21日
資本金：2,000万円
従業員数：170人

住所：藤岡市浄法寺 866-12
TEL：0274-50-3303
Mail：wide@sunsunnet.co.jp
URL：https://www.sunsunnet.co.jp



WEB サイト

● 事業者紹介

1973年設立の農業用・産業用ネットおよびクロスシートのメーカーです。農作物の害虫対策や遮光、太陽光発電現場での雑草対策、作業現場における環境改善等、多岐にわたっており、ユーザーの現場に合わせた規格での製品提供も行っています。



● 経緯・背景

設立以来、蚊を防ぐために吊るされた蚊帳織りの伝統技術を活かし、農薬を使用することなく安全な野菜作りに貢献したいとの願いから、様々な資材開発に取り組んできました。その取組が評価され、2012年には「減農薬栽培の普及に貢献した農業用被覆資材の開発」の功績にて、農林水産大臣賞を受賞しました。

設立以来取り組んでいる事業そのものがSDGsの概念に則していると考えており、従来製品の改良やユーザーの声を活かした新製品開発、並びに製品普及がSDGsの達成に貢献すると考えています。

● 具体的な取組や成果

陸上生態系の保護や、人々の健康維持に貢献する新製品を開発 様々な製品で地球環境を保護し、発電環境維持や海洋汚染防止に貢献します

● 安全な野菜づくり

防虫ネット「サンサンネット」シリーズは、農作物への害虫被害を農薬ではなく、ネットを用いて抑えることで、減農薬栽培ならびに安全な野菜づくりに貢献しています。

● 日本の木々を守る

近年の日本が抱える環境問題の一つに外来種（日本古来でない生物）による生態系の破壊が挙げられます。中でも、クビアカツヤカミキリという外来種は桜などの樹木の内部に卵を産み付け、孵化した幼虫が樹木を食い荒らし、大枝枯れなどの樹勢衰退現象や枯死を引き起こすなど、被害は拡

大傾向にあります。そのような被害報告や対策相談を受け、クビアカツヤカミキリの胸部が赤いという特徴を利用し、視認性を高めて産卵行為を阻害する黒色ネット「クビアカガードネット」を開発。現在は桜の名所のほか、外来種による樹木被害に悩む全国の人々から問い合わせをいただいています。

上記を一例とした事業はSDGsの概念に則しているとして、2021年6月に一般社団法人日本SDGs協会より、SDGs事業認定を受けました。



クビアカガードネットを施工した樹木



SDGs事業認定証 国連の定める17のゴールのうち7つのゴールについて、(一社)日本SDGs協会よりSDGs事業認定を受けています

当社にとってのSDGsビジョン

従来製品の改良やユーザーのニーズに合った製品を開発

1973年の設立時より取り組んでいる事業そのものが、SDGsの概念に合致していると考えています。今後もユーザーの負担軽減に繋がる製品の軽量化、外来種対策製品に代表される「ユーザーの要望を活かした製品」の開発など、社会課題解決に貢献できる製品づくりに取り組んでいきます。

今後の展望と求めるパートナー像

開発型のメーカーとして日本の生態系保護で貢献

外来種による被害対策に悩んでいる方、日本の生態系保護に尽力いただける方と共に、生態系の保護に貢献していきたいと考えています。